

2023年度

科目名称	子どもの作業療法基礎
授業コード	AE269
英語名称	Foundation of Occupational Therapy Theory Pediatrics
学期	2023年度後期
単位	2.0
担当教員	石井 孝弘 (医療科学部)
記入不要 ナンバリングコード	
授業の概要	<p>子どもを対象とする作業療法の総論、治療理論について教授する。成長・発達過程にある子どもを対象にする作業療法に必要な基礎としての人間発達の知識を学習する。</p> <p>正常発達としての月齢、年齢による分類、さらに成熟の原則、中枢神経系の成熟などを今まで学習した解剖学、生理学、運動学などと関連付け学習する。</p> <p>運動発達、精神発達、認知の発達などを総合的に学習し、特に運動発達では反射反応の出現統合時期と関連付けて学習する。</p> <p>子どもの発達と遊びを感覚統合理論から分析する力を養うことで、遊びに発達のな意味合いを説明することができるようになることを目標にする。</p> <p>その他、正常発達としての口腔機能についても学習する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 発達障害分野の作業療法において、必要な基礎知識の理解。 2. 正常発達に関する知識を学習し、発達障害の臨床像の理解。 3. 実際の場面における作業療法士の役割の中で倫理的配慮について理解することができる
科目に関連する実務経験と授業への活用	発達分野で作業療法に従事していた実務経験のある教員による実践的科目 感覚統合理論などを用いて発達障害児への支援を行っている教員が、具体的な支援方法などを提示する。 演習などを実体験を含めて学生は学習する
到達目標	<p>カリキュラムポリシーに掲げる「人体の構造と機能及び心身の発達、疾病・障害の成り立ちと回復過程および保健医療福祉とリハビリテーションの理解などから作業療法の基礎知識を学ぶ、基礎作業療法学や評価学、治療学、管理学などから、作業療法の実践を学ぶ」ために学習を進める</p> <p>【科目特有の知識技術についての到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の発達に関する基礎知識を、作業療法と結びつけて考えることができる。 2. 作業の発達過程および障害について理解し、作業療法の視点で評価することができる。 <p>【汎用能力としての学士力についての到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 適応行動上の問題に着目して作業療法実践に必要な評価を実践することができる <p>研究者倫理に関する規範意識として、研究者の行動規範、遵守すべきことなど理解した上で研究に取り組むことができる</p>
計画・内容	<p>予習 人間発達学における乳幼児の発達</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション, 発達障害分野の作業療法の役割 復習: 予習 オリエンテーション, 発達障害分野の作業療法の役割 運動発達, 中枢神経系の発達, 反射反応, 乳児期1 2 運動発達, 中枢神経系の発達, 反射反応, 乳児期1 復習: 予習 運動発達, 中枢神経系の発達, 反射反応, 乳児期1 運動発達, 成熟の原則, 反射反応, 乳児期2 3 運動発達, 成熟の原則, 反射反応, 乳児期2 復習: 予習 運動発達, 成熟の原則, 反射反応, 乳児期2 運動発達, 反射反応, 幼児期1 4 運動発達, 反射反応, 幼児期1 復習: 予習 運動発達, 反射反応, 幼児期1 運動発達, 反射反応, 幼児期2 5 運動発達, 反射反応, 幼児期2 復習: 予習 運動発達, 反射反応, 幼児期2 遊びの発達, 手指機能発達 6 遊びの発達, 手指機能発達 復習: 予習 遊びの発達, 手指機能発達 感覚統合と発達 7 感覚統合と発達 復習: 予習 感覚統合と発達 感覚統合療法2

2023年度

<p>計画・内容</p>	<p>8 感覚統合療法2 復習：予習 感覚統合療法2 障害児療育、 9 障害児療育、 復習：予習 障害児療育、 認知機能の発達・心理社会機能・遊びの発達 10 認知機能の発達・心理社会機能・遊びの発達 復習：予習 認知機能の発達・心理社会機能・遊びの発達 .食事機能のの発達と食事介助 11 .食事機能のの発達と食事介助 復習：予習 食事機能のの発達と食事介助 脳性麻痺の定義，原因，類型別，姿勢・運動の特徴 12 脳性麻痺の定義，原因，類型別，姿勢・運動の特徴 復習：予習 脳性麻痺の定義，原因，類型別，姿勢・運動の特徴 脳性麻痺児の作業療法 13 脳性麻痺児の作業療法 復習：予習 脳性麻痺児の作業療法 重症心身障害児の障害の概要と作業療法の視点 14 重症心身障害児の障害の概要と作業療法の視点 復習：予習 重症心身障害児の障害の概要と作業療法の視点 二分脊椎 15 二分脊椎 復習 二分脊椎</p>
<p>授業の進め方</p>	<p>1. 各テーマごとの講義、動画等を用いる 2. 毎授業ごとに課題を提示し、授業時間内に提出する。</p>
<p>能動的な学びの実施</p>	<p>問題解決学習：具体的な障害のある子どもの状況から問題点がどこにあるのかなどを探る 学生間でディスカッションして回答する機会を設ける 作業療法に必要な実践力を身につける</p>
<p>授業時間外の学修</p>	<p>授業前の予習は、教科書、参考書等の該当箇所を読み、不明な点をまとめておく。 授業後の復習は、教科書、参考書、プリントと授業内容を関連付けて自分の講義ノートを整理事ること。 (合計60時間程度)</p>
<p>教科書・参考書</p>	<p>参考書：奈良 勲 / 鎌倉 矩子 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 小児科学 第5版 医学書院 2018 参考書：田村 良子 作業療法学全書 改訂第3版 第6巻 作業治療学3 発達障害 協同医書 2010 参考書：金子 芳洋 食べる機能の障害 その考え方とリハビリテーション 医歯薬出版 1987 教科書：真野 幸雄 漢訳 「理学療法・作業療法のための神経生理学プログラム演習2：運動発達と反射 反射検査の手 1987</p>
<p>成績評価方法と基準</p>	<p>毎回の授業後に実施する課題の提出20%、最終回に実施するまとめに対する課題レポート80%</p>
<p>課題等に対するフィードバック</p>	<p>・授業内で提出した課題に対するレポートには必要に応じてコメントする</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>「CampusSquareを参照」</p>
<p>留意事項</p>	<p>必修科目 授業中の質疑応答には積極的姿勢で臨むことを期待する ノートを必ず取ること この科目は、子どもの作業療法基礎と称しているが、内容は成人の中枢神経系の障害などにも関連する。また将来作業療法士として業務に従事する際には、役に立つ内容であることから、積極的に授業には望んでほしい。 特に反射反応などは、国家試験にも出題されている</p>
<p>非対面授業となった場合の「授業の進め方」および「成績評価方法と基準」</p>	<p>・各テーマごとの非対面型の講義はオンタイムもしくはオンデマンドにより動画配信する 毎回の授業後に実施する課題の提出20%、最終回に実施するまとめに対する課題レポート80%</p>